

令和4年度 糸島市総合計画審議会(基本目標1・2点検部会)

— 議 事 録 (要旨)—

■日時: 令和4年7月29日(木) 13:30～16:35

■場所: 糸島市役所 11・12号会議室

(出席委員)

那須部会長、松尾委員、平田委員、中尾委員、山本委員、吉岡委員、江藤委員

※欠席: 東原委員

※途中退席: 吉岡委員(基本目標1のみ)

(事務局)糸島市

経営戦略部 浦志部長

企画秘書課 吉村課長、下尾課長補佐、立石

(統括課等)

【基本目標1 未来社会で輝く子どもを育むまちづくり】

子ども課 成吉課長

子育て支援課 山下課長、春日課長補佐

学校教育課 吉永課長

教育総務課 小嶋課長、金子係長、鳴海係長

生涯学習課 高橋課長

文化課 村上課長

【基本目標2 人と人がつながり助け合うまちづくり】

生涯学習課 高橋課長、塔野係長

コミュニティ推進課 江川係長

人権・男女共同参画推進課 長田課長、犬丸課長補佐、平野課長補佐

【重点課題プロジェクト 子育て・教育環境の充実】

子ども課 成吉課長

子育て支援課 山下課長、春日課長補佐

学校教育課 吉永課長

教育総務課 小嶋課長、金子係長、鳴海係長

生涯学習課 高橋課長、塔野係長

文化課 村上課長

コミュニティ推進課 江川係長

人権・男女共同参画推進課 長田課長、犬丸課長補佐、平野課長補佐

【議事概要】

1 開会

2 諮問

3 経営戦略部長 挨拶

4 外部点検実施要領について

意見なし

5 外部点検

以下、那須部会長の進行。

■委員 ○事務局 □統括課等

(1)基本目標1 未来社会で輝く子どもを育むまちづくり

事務局から【別紙③-1】外部点検シート及び【別紙⑤】各施策の関連事業資料を基に、概要を説明。

■那須部会長

通し番号3について、意見はあるか。

■吉岡委員

まず、点検シートについて、総合評価の枠の中に個別の施策がいくつかある。「△」と「▼」あるが、これは割合で総合評価を付けたのか、内部評価で全体的なものとして付けたのか。AであればBに近いAなのか、もっと上のAなのか、より分けて評価しなければならないのではないかと。総合評価の中に「▼」が並んでいけばAにするわけにはいかないと思うが、Aとなっている。指標の進捗状況について、より細かくした方がわかりやすい。

また、指標18については、数字が多い方が悪いのか。

○事務局

指標18は、超過勤務時間が多くなっているということである。

今回初めて外部点検を実施しており、昨年の総合計画審議会で検討いただいた評価シートに準じて、資料を作成している。なぜこのような総合評価の結果となったかという理由の記載については、他の部会でも指摘があったため、次年度以降は資料に反映させていきたい。

■那須部会長

確かに指標と総合評価の関連性が見えにくい。「▼」が多いのにAなのはなぜか。Aは順調という言い方で、指標の進捗で見た場合と総合的に見た場合とで、評価の軸が違う。整合性を図るよう検討いただきたい。

■山本委員

一般的、機械的に考えて、総合評価は「△」の数で決まるだろうが、諸般の事情で機械的に判断できず、総合的に評価していることは理解する。数値化することで正確に評価できるものは良いが、数字で表せないものもある。

□子ども課

例えば指標3については、小学生以下の子どもがいるところだけの回答結果を集計すると、36.6%となる。

■那須部会長

非常に重要な問題提起であるが、今回はそこを加味しながら評価していく。次回以降は改善いただきたい。

■吉岡委員

例えば通し番号3について、目標は達成しているのにBとなっている。B評価となった理由を記載しなければわかりにくい。

○事務局

確かに指標については達成しているが、二次評価にて、学校運営協議会は全校設置しているが一部理解が進んでいないこと、また、学校や家庭、地域が連携した教育環境の充実については、今後もさらに充実を図る余地があることから、総合的に判断し、Bと評価している。

■吉岡委員

学校から見たらAとなり、地域から見たらCとなることもあると考える。そういった点が単なるABCという形で評価され、内容もわかりにくい。

■中尾委員

通し番号3について、数値だけ見ると良いが、中身が見えない。コミュニティスクールに参加しているのは一部の人であり、多くの住民に波及しているとは言えない。学校、地域、家庭の連携については、コミュニティスクールの他にもう一つの柱として学校地域連携本部があり、住民も個人的に参加しやすいものである。コミュニティスクールを頭脳部分、学校地域連携本部を手足部分とし、その二つの融合が本来あるべき姿と文科省も示している。こういった考え方を次年度に取り入れてほしい。

■山本委員

学校運営協議会で取組の評価を行い、改善策を校長に提出して、各学校の評価が教育委員会に集約されていると思う。その後の処理の仕方はどうなっているか。

□学校教育課

各学校の評価については全て確認している。学校ではしっかり取り組んでいるものの、地域全体にコミュニティスクールが伝わっていないため、Bと評価している。

■吉岡委員

令和3年度、学校運営協議会については活動していない。このような状況で評価するぐらいならしない方がいいと思う。団体が何も動いていないのに、外部から評価をもらうということはどうなのか。

□学校教育課

確かに対面で協議した学校はほぼなかったが、地域のつながりを大切にしてほしいと学校に伝え、書面も含め、リモートで実施した学校もある。

■那須部会長

事実をシートに書いてもらおうと思う。無理に評価をして外部の意見とするのはいかなものかという指摘であった。

■平田委員

コミュニティスクールの周知がなかなかできていないということで、指標としては既に決められているところであるが、例えばコミュニティスクールの認知度を市民アンケートなどで聞いてみてはどうか。令和7年度までの指標を達成している以上、それ以外の数字で評価していかないといけないのでは。指標とはしなくても、それ以外の数字があればわかりやすい。

■吉岡委員

コミュニティスクールという表現について検討できないか。学校基本方針でまとめたら良いのではないかも考える。

□学校教育課

地域の中で子どもを育てていくという原則に立ち返ったときに、やはり学校は開かれていなければならない。平成16年に法改正があり、コミュニティスクールとの表現となった。本質的には地域で子どもを育てるということを学校でも達成できるよう、お互いが協力するということである。

■那須部会長

通し番号4について、意見はあるか。

■中尾委員

指標11について、達成となっているが、全国学力調査の結果が9月にでており、小学校は全国平均を上回り、中学校は下回っていた。小学校は全体を見ている取組が多く、中学校はトップクラスを伸ばすような取組の印象を受ける。全体を伸ばすことを強調するような施策があっているのではないか。

■江藤委員

ICTの活用についてであるが、自分自身子どもが3人いて、タブレットが家にある。コロナの影響で授業を家で受けることがあり、保護者の目線で授業を見ることがあるが、先生によってすごく差があると感じている。ICT支援員を2名配置とあるが、先生に対する指導が重要だと考える。プロではなく退職した先生を配置している状況であるが、専門的な人員を配置し、先生を指導できるような仕組みがあればよいと考える。

■吉岡委員

退職教員を配置、2名を雇用などの文言が出てくるが、これが成果なのか。支援員を配置し、その後どうだったのか、ということが成果なのではないか。

■那須部会長

今後この資料の加筆修正は可能か。より具体的な成果をという指摘である。

○事務局

この資料については、この会議のために取りまとめたものであるため、修正はしない。次年度以降、改善したい。

■那須部会長

評価のありようと、具体的な中身に関しての評価が同時進行しているように思う。審議会からの提言として残していただきたい。

○事務局

本日は評価のあり方についても意見を伺いたい。

□教育総務課

補足であるが、教育委員会ではICTに関し、ハード面をどう整備していくか、また、どのように運用していくかについて検討している状況である。

キャリアを多く重ねた教員は、授業で機器をどう使ったらよいかイメージはできるが、機器を使える技術がないことが多く、一方で、若い教員はこの逆が多い。このギャップをどう埋めるか、教員が何を求めているかなどについて、5月に課題を抽出し、対策を検討している。指導員の配置についても、退職教員がいいのか、民間のプロがいいのかについて、検討しているところである。

また、成果の出し方については、評価の項目をある程度細分化したところから全体の結果を成果とし、評価を行っている。成果指標についても、一番良いのは数値化することであるが、事業を細分化していくとその評価はどうしても活動評価の指標が出やすいという傾向は、所管課としては持っている。

■那須部会長

教員養成の大学等でも機器の操作に関する授業が始まっているが、どのように授業場面に活用していくのかは見えにくく、また、1か月間の実習で期間が短いところである。今勤務している先生に対してどのように学んでいってもらえるのか、ただし、先生の負担を増やすことになるため悩ましい問題である。この問題を放っておくと、学校間の格差につながりかねないため、市として注視してほしい。

■松尾委員

昨年から各生徒に一台ずつの端末が配布され、コロナ禍での授業に対応するためのオンライン授業が始まった。学校内のWi-Fi環境や各家庭のインターネット環境の整備もあり、ようやく4月ごろからオンラインでの対応ができるようになってきた。その中で現場の先生は本当に努力されている。現在、新しい形での授業ができるようになってきているため、もう少し長い目で見てほしい。コロナが落ち着いて、授業参観が開始されると保護者も見ることができるようになる。

ICT支援員配置に関しても後々足りなくなってくると思うため、教育委員会としてもプロを呼んでくるなどについて検討するが、それについてもコミュニティスクールの取組も重要で、ITに詳しい地域住民に参画してもらい、いろいろな知恵を出していただきたいと考える。今までもコミュニティスクールの推進はあっていたが、文科省が示しているのは学校をもっと開き、保護者、学校、地域が協力してコミュニティスクールにするとある。その中で、学校が主体となっている地域もあれば、コミュニティスクールが主体となっている地域もあり、学校ごとに取組方が異なっている。コロナで止まっていたこともあり、令和3年度で通し番号3を評価することは難しいと思う。

■那須部会長

学校というと学習面を見がちだが、子どもたちの生活面での変化もある。ICT機器の導入と活用について、学習面と生活面、両面から継続的な調査をお願いしたい。

■山本委員

子どもの姿で評価してほしい。ICT機器について、このように利用したら、子どもがこのように変わって、このよう

な面が教師の力や学校の体制で変わった、というモデルをどこかで作れたらよい。また、自分の良いところがあるというのは自尊感情であるが、どんなところが自分の自信につながっているのか、また、目標となるものがあり、その目標を達成するために必要なものが先生の指導法なのか、あるいは自分の努力なのか、自分育てを応援してくれる人のか、そういった子どもの姿、実態を評価できるような教師の見る目を期待したい。

■吉岡委員

問題を解いた時の楽しさが伝わっていないのではないかと。不登校についても家庭や友人など、様々な原因があると思うが、勉強が理解できないことが一番大きいのではないかと。

■那須部会長

世界的にみると、OECDの調査によれば日本は家庭におけるスマホやタブレットの使用時間長いですが、活用する能力が低いとの結果も出ている。この結果を学校教育において、どのように位置付けていくか。また、地域で見られている大人がいるということを感じ、様々な子どもの居場所があった方が良く感じる。

■那須部会長

通し番号5について、意見はあるか。

■江藤委員

指標14のR3の実績が高いことについて、詳細を教えてください。

□学校教育課

不登校対応指導員は、生活指導を担当していた教員OBを任用している。日中、家庭を訪問し、生徒とつながること、話を聞くことからスタートしている。指導員がいることにより安心感を持つ生徒、自分は学校にいても良いのでは、との気持ちが芽生えたりする生徒が昨年度から増えており、少しの時間だけでも学校に出てこれるようになってきている。不登校対応指導員の成果と捉えている。

□教育総務課

不登校になる子どもたちには段階があり、初期の兆候が出た段階、残念ながら深みにはまってしまった段階がある。手立てとして、生活のリズムが少し壊れ始めたのではないかと、その時に声をかけることが必要であるが、先生の通常の校務の中では対応が難しかったこともあり、指導員を配置している。初期段階での対応に着眼しているというところである。

■江藤委員

指導員の対応もうまくいく場合とうまくいかない場合がある。不登校になった子どもを学校に戻すという話であるが、なぜ不登校になったのかについては調査しているのか。

□学校教育課

学校に魅力がなくなった、あるいは学校不信など、様々な要因はあるが、学校でしっかり分析をしている。ただし、要因が多岐に渡っており、決定打がない状況であるため、指導員を配置し、少なくとも社会とのつながりを絶たないよう徹底し、対応している。

□教育総務課

要因の分析は行っているが、要因が複合的に絡んでいるため、決め打ちで対応できないこと、また、本人にも

要因がわからないことが増加している状況があることについて危惧している。

■江藤委員

居心地が悪いところには行きたくない。小学校までは自由にのびのびとやっているが、中学校に入った途端に色々なルールが増える。多様性の時代だと言ったり、LGBTQを認めようと言ったりしているが、みんな同じでないといけない、ちょっとはみ出すと注意されるといった雰囲気がある。不登校になった理由を家庭も考えないといけなし、学校自体も変わっていくことを検討いただけたらと、一般市民として考える。

■吉岡委員

この審議会で総合評価を決めていくのであれば、何の評価であれば一番予算が取れるのか。

○事務局

総合評価で予算を決めるわけではなく、こういった部分がまだ足りていないのではないかと、こういった施策をしていくべきではないか、という意見を担当課に伝え、新しい取組としてできることを検討していく。

■山本委員

不登校対応についてであるが、一人ひとりの居場所がない学校に魅力は感じない。一人ひとりが夢と希望を持って輝く場所が学校であり、学校長は不登校児童を生み出さないことが最大の目標だと考える。支援体制の構築のため、スクールカウンセラーや教育相談員などが配置されており、今後もしっかりと予算を付けていかなければならない。今後、不登校の子どもたちはもっと増えていくと考える。子どもは減っていくのに不登校の子どもは増えていく社会の中で、不登校の生徒を支援する教師の力量やその支援体制はより重要となってくる。また、保護者の理解を得て、対応事例をもっと発表すべきとも考える。

■吉岡委員

不登校は、家庭にも大きな問題をもたらすものであり、簡単なものではない。今後増えていくというが、不登校という生き方が正当化される社会にならないとも限らない。親が不登校の子どもに学校に行かせようと表に出すと、子どもは悩む。そうすると、学校に行くようにと言うことができなくなる。間違っているかもしれないが、どちらが正しいとかではなく、そういう生き方があることを認めるという配慮も必要なかもしれない。

■山本委員

学校復帰を目的とした学校適応指導教室が設けられたとのことであるが、適応指導教室には何人通っており、どのような形で学校に復帰しているのか。

□学校教育課

市が設置している適応指導教室は教育センター内にあり、学校内にはサポート教室として設置している。人数については流動的である。学級内にいれなくなったときにクールダウンするというのが、学校では行われており、基本的に先生が交代で常時配置されている。

■那須部会長

様々な子どもがいるという多様性を、市としてどのように認めていくのか。根幹に関わる議論であった。

■那須部会長

通し番号7について、意見はあるか。

■江藤委員

指標22について、目標達成のために実施したことは運動公園の整備だけとなるのか。

□生涯学習課

運動公園整備とは別に、スポーツチャレンジ教室を主な事業として取り組んでいる。コロナ禍で2年間実施できていないものの、今年度、9月に実施を計画している。過去には、各スポーツの有名選手を招き、子どもたちにスポーツに親しんでもらうことを目的に実施してきた。また、スポーツ推進委員を各校区から2名選出してもらい、子どもや高齢者が取り組みやすいニュースポーツの指導や学校への体力測定の補助などに取り組んでいるところである。運動公園は来年度から生涯学習課が所管となるため、障がい者スポーツなどを含め、既存の運動施設や運動公園の体育施設を活用していく。

■江藤委員

30～40代の子育て世代が運動を急にしなくなるとの話を聞いたことがある。子どもが所属しているサッカークラブは、保護者も一緒にプレーをするというスタイルで、週1回、汗だくになりながら、保護者もプレーしている。子どもと保護者が一緒にできる運動は効果的だと考える。

□生涯学習課

一緒にやっていたら教えたくなり、一緒に始めて保護者が指導者になったという事例もある。そのような広がりもあって良いと考える。

■那須部会長

とても大事な視点である。保護者もサークルに任せるのではなく、自分も一緒に取り組む、また、対象年齢も乳児期から、乳幼児の子どもを持つ保護者も一緒に体を動かすといったコンセプトもあっていいのではないかと思う。

■山本委員

図書館について、図書館サービス基本計画は読書活動と図書館利用サービスの向上に関する良い計画であるため、ぜひ生かしてほしい。

□生涯学習課

昨年3月に読書ふれあい推進計画を作り、3つの基本指針を示している。図書館協議会で読書推進、特に子どもたちの読書推進を中心に、取組を進めていきたい。

■那須部会長

通し番号8について、意見はあるか。

■中尾委員

地域活動に参加すると、ジュニアリーダーやその出身者が様々な方面で活躍している。大学との連携も重要であるが、18歳になって糸島に来た人より、地域で生まれ育った人を地域のリーダーとして育てていくという視点は大事である。

また、指標24が達成できていないのは、コロナの影響によりふれあいの機会が減ったこともあるだろうが、次年度以降はコロナが落ち着くという期待も込め、地域の方々が青少年健全育成に取り組めるよう、事業を増やしていったほしい。

■平田委員

R5の施策の方向性に、「一部目に見える効果も出てきている」という記載があるが、どういう効果か。

□生涯学習課

ジュニアリーダー研修に参加した子どもが、以前、青年団に所属して活動をしたり、地域の子ども会でレクの指導をしたり、そのような形で成果が見えてきている。学校ではおとなしいが、子ども会では生き生きしているという言葉も聞いたことがあり、同じ世代だけではなく地域の子どもたちと接することで、やりがいを感じて活動する姿を見ることができている。

■江藤委員

指標23について、R7目標は75人になっているが、R3の14人や15人という数字を見ると、少ないのではと思う。

□生涯学習課

毎年15人増やし、R7時点での合計が75人ということである。

■江藤委員

ジュニアリーダー研修の内容はとても魅力的だと感じる反面、子どもたちは部活などで忙しい。今の子どもたちの状況に合わせ、参加しやすい環境になれば良いと考える。

□生涯学習課

子ども会の専門委員や各校区の代表に、そのような意見があったと伝えさせていただく。

■那須部会長

学校づくりや地域づくりにおいて、子どもも当事者である。そこにもう少し丁寧に関わっていく必要がある。子どもたちがどう思っているかを吸い上げることも必要と考える。

■那須部会長

通し番号9について、意見はあるか。

■平田委員

指標25について、コロナの影響で実績数値が低く、「▼」がつくのは仕方がないと思うが、実績だとどうしても数値がコロナで少なかったということで終わる。事業を実施したのであれば、実施したことで成果があったことがわかるような記載があれば良いと思う。

■那須部会長

外部点検シートの記載内容の充実をお願いします。

■山本委員

文化事業とは何か。また、図書館や美術館の整備について、どのような考えを持っているか。

□文化課

文化事業については、文化課が主催した事業をカウントしている。昨年度、美術館では写真コンテストを実施したが、非常に多くの応募があり好評であった。なお、美術館についてはハード整備ではなく、自主事業等のソフト

面を充実させていく。

(2)基本目標2 人と人がつながり助け合うまちづくり

事務局から【別紙③-2】外部点検シート及び【別紙⑤】各施策の関連事業資料を基に、概要を説明。

■山本委員

通し番号10について、地域活性化や課題解決を図るとあるが、課題を明確化すると良い。地域資源や人材を活用するためにどんな手立てを打つか、例えば人材マップなど、具体的な策があると良い。

通し番号11について、ボランティアセンターや派遣事務局とあるが、どのように運用されているのか。

○事務局

通し番号10の課題の明確化について、行政区長会等があるたびにコミュニティ推進課の職員が参加し、地域との意見交換を行い課題把握に努めているところである。

□生涯学習課

通し番号11については、NPOボランティアセンターの「こらぼ」があり、場所は警察署前の施設に設置し、3人の会計年度任用職員を配置している。ボランティア派遣事務局は、市が委託しており、2名配置している。こらぼは市民活動やボランティアの情報提供、ボランティア派遣事務局は小学校や子ども会に対し、地域ボランティアを派遣するもの。今年度から生涯学習課が所管することとなったため、今後は連携していければと考える。

■江藤委員

通し番号10について、自治会の加入率は意外と高いが、地域活動に参加している市民の割合や地域の一員としての意識や周りの人とのつながりがあると思う市民の割合は少ないように思う。それに対し、校区まちづくり推進事業に取り組まれているが、自身の校区でどのような事業を実施しているかを知らない。また、課題に対してどれほどの解決効果があるのか。糸島市に住み、感じる事ができる豊かさとは、自然豊かであること、地域の中で安心して暮らすことができていること、つながりを感じることができていることだと思う。この数値を上げるため、より効果的な取組があれば良い。

■那須委員長

現時点のイメージやアイデアはあるか。

○事務局

自治会とは基本的に行政区のことで、行政区が集まったものが校区であり、校区まちづくり補助金は校区で企画した体育祭や環境美化などの活動に活用されている。行政区には行政区まちづくり補助金を別に支出しており、広報紙の配布補助、敬老会など、ある程度自由に使えるものとして活用いただいている。

■松尾委員

通し番号16については、言葉の壁が一番だと思う。外国人によく言われるのは、ごみの出し方がわからない、町内で何を言われているのかわからないといったことである。まずは、どの国の人がいるのかを把握することから始める必要がある。また、ベトナム語から英語に翻訳することは簡単であるとともに、最低限必要な情報を言えば伝わるものである。なお、情報をどこで入手したらよいかのわかる取組についても推進していただきたい。

□コミュニティ推進課

情報源について統一的なものはないが、今年度ごみの出し方や行政の手続きについてまとめたパンフレットを作成しており、来年度、言語を追加する予定である。

○事務局

市に転入したときに、多言語により作成した生活の仕組みがわかる冊子を配布しているが、そこで配布されていることを知らない人もいるかもしれない。必要な人に届くよう、市民課窓口に伝えたい。

■那須委員長

ホームページ上でも確認できるのか。

○事務局

糸島市のホームページは言語を選べるようになっており、すべての言語ではないが、一定の言語には対応している。

■中尾委員

指標29、31について、地域活動に参加している市民の割合はコロナで減っているかと思うが、一方でボランティア活動に参加したことがある市民の割合は増えている。自治会活動ができなかった人が、今動いているボランティア活動にシフトしているのではないかと想像する。生涯学習課とコミュニティ推進課が連携しながら、支援していつてはどうか。

□生涯学習課

今年度から生涯学習課とコミュニティ推進課は同じ部になったため、連携を深めるよう考えていきたい。

■山本委員

通し番号14、15について、人権尊重は大切なことであり、気づいていない市民への支援は大切である。気づいていないということは知らないということで、知らないことが差別につながっていることもある。人権感覚を磨き、人権尊重が当たり前の糸島市になってほしいと思うし、人権感覚を磨くということは生涯大事なことである。市ではいろんな地域で人権問題に取り組んでいることは知っているが、指標42、43の実績がなかったのはなぜか。

○事務局

令和3年度中に人権教育の手引きを作成したため、令和4年度以降に活用していく予定である。

○事務局

人権教育の手引きの1、2、3は既に活用されており、新しく「4」を作成した。次年度の実績には出せると思う。

(3)重点課題プロジェクト 子育て・教育環境の充実

事務局から【別紙③-3】外部点検シート及び【別紙⑤】各施策の関連事業資料を基に、概要を説明。

■中尾委員

このプロジェクトに関しては大きな期待をしており、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある中学3年生の割合」を増やすために必ず成功させなければならない。重点課題プロジェクト会議において、職員で協議を進められているとのことであるが、可能であればこの会議に参加させていただき、意見交換の場を設定

してほしい。

令和5年度に向けての施策だが、放課後子ども広場について、令和4年度の9月補正にでも早急に取り組んでいただきたい。地域の人間が学校と関わることはコロナ禍で難しいが、教室に入れなくても放課後に地域の人間が関われる場があり、有意義なものであるため早めに取り組んでほしい。

■那須委員長

見通しはあるか。

□子ども課

放課後子ども広場の展開について9月補正でとの話だが、令和3年度にボランティアに補助金を出して実施したものの、コロナ禍で思うようにできなかった。その中での課題として、現場で子どもたちを相手にすることはいいが、怪我したときの責任など、何かあったときのための制度設計をしっかりとしておく必要があることなどが抽出された。そのため、今年度しっかりと議論しないと、整理しないまま事業を開始しても、頓挫する可能性がある。また、15校区全てで事業を展開した場合の費用対効果についても整理する必要があり、福岡市の受託業者に聞き取りしたところ、1校当たり数百万の費用が発生する。令和3年度で課題が見えたため、令和4年度で十分に整理していきたいと考えるため、時間をいただきたい。

□子育て支援課

この事業を実施するうえで重要なことは継続性である。打ち上げ花火にならないよう、どうしたら効果的に実施できるか、令和3年度から検討を続け、制度設計に今取り組んでいるため、もう少し時間をいただきたい。

■江藤委員

総合評価Eは厳しい評価と思うが、その理由は。

□子ども課

令和3年度についてはどうあるべきかから進んでおり、評価できるものがないと判断し、E評価とした。

■那須委員長

指摘のとおり継続性や持続性の問題もあり、途中で事業がなくなると地域も混乱するため、今後詰めていっていただきたい。

6 その他 外部点検の改善点等について

■那須委員長

審議会冒頭から並行して指摘があっているので、事務局で整理していただきたい。各委員、それで良いか。

■一同

了。

■那須委員長

別紙⑤について、成果の前に実績を記載していただきたい。

7 今後の予定

○事務局

本日の部会で総合計画審議会外部点検は終了となる。今後は各部会で審議いただいた内容や、議事録の確認を文書にて願います。8月上旬ごろには郵送させていただくため、内容の確認を8月中旬ごろまでに願いたい。

8 閉会